

## SUPER FORMULA NEXT50 2026年 第1回カーボンニュートラル開発テスト実施報告

全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下「SUPER FORMULA」)を開催する株式会社日本レースプロモーション(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：上野 禎久、以下「JRP」)は5月12日(火)から14日(木)の3日間、2026年シーズンの第1回目となるカーボンニュートラル開発テスト(以下CN開発テスト)を栃木県茂木町、モビリティリゾートもてぎで行いました。

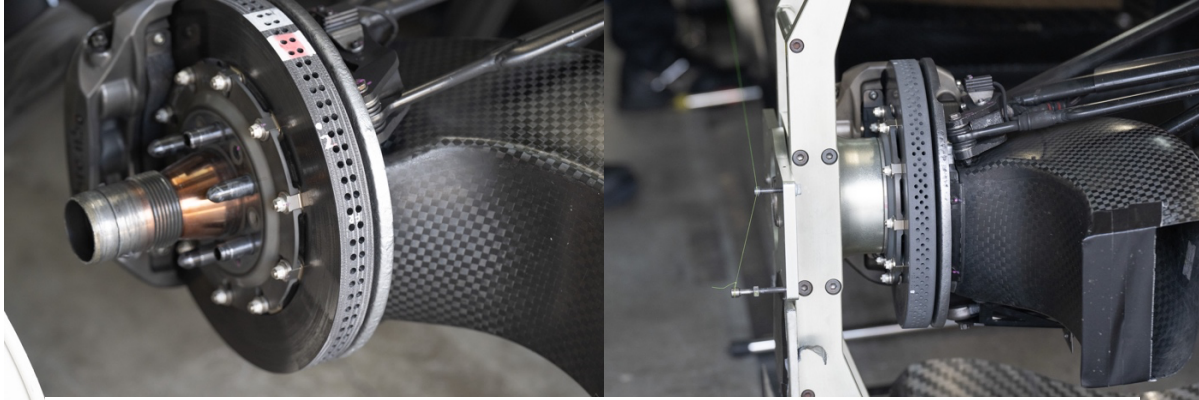


＜開発テスト車両 通称「白寅」(山本尚貴選手)＞      ＜開発テスト車両 通称「赤寅」(国本雄資選手)＞

JRPでは2022年から「SUPER FORMULA NEXT50」プロジェクトを通じ、「カーボンニュートラルへの対応」と「エンターテインメント性の向上」の2つをテーマに、メーカーの垣根を越えてCN開発テストを繰り返し実施しています。

2023年に導入した現行マシン『SF23』は、カーボンニュートラルの対応として、原材料ならびに製造過程でのCO2排出量を約75%抑制した「Bcomp社」のバイオコンポジット素材や、昨シーズンより天然由来の配合剤やリサイクル素材等、再生可能原料の比率を46%まで向上させた横浜ゴムの「カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ」を採用しており、昨年9月に実施した第2回CN開発テストからは、国内初となる国産のセルロースエタノール混合ガソリン(低炭素ガソリン：E10燃料)のテストを開始。この燃料は既報の通り(ご参照：<https://superformula.net/sf3/release/22933/>)、復興に取り組む福島県大熊町を拠点にバイオエタノール燃料の製造技術を研究する次世代グリーンCO2燃料技術組合(「raBit」)と、セルロースエタノールを用いた低炭素ガソリンの品質設計と供給を担うENEOS株式会社が製造・供給するもので、今季よりレギュラーで使用されているE10燃料のアップデート製品もテストされました。

今季も引き続き White Tiger SF23 (通称「白寅」) と Red Tiger SF23 (「赤寅」) が参加し、「赤寅」は 2016 年のシリーズチャンピオン国本雄資選手、「白寅」は 2013 年、18 年、20 年と 3 度のシリーズチャンピオンを獲得した山本尚貴選手が開発ドライバーを担当しました。



<2 種類のブレーキパーツ>

今回のテストは、初日と 2 日目がドライコンディションでのテスト、最終日 3 日目はウエットコンディションでのテストで、タイヤについてのテストメニューは今季中のドライタイヤ、及びウエットタイヤのコンパウンドのさらなる最適化を図ること、またサスティナブルなパーツ供給を目的とした新しいブレーキパーツのテスト、E シフト・E クラッチの継続テスト、パワーステアリング用アシストマップの最適化などが実施されました。E10 燃料については春先や晩秋の低温時の燃焼効率を改善することを目的としたアップデート版を持ち込んでのテストとなりました。

初日は朝 10 時から 12 時、午後 2 時から 4 時の計 4 時間のテストを行いましたが、午後のセッションの残り約 1 時間となったところで「白寅」、「赤寅」両車両にそれぞれ異なるトラブルが発生し、初日のセッションはその時点で終了となりました。

前日の状況を踏まえた 2 日目のテストでは、朝 9 時から 12 時 30 分の 3 時間半に及ぶテストを実施。約 40 分間のロングラン・テストを 2 本こなすなど精力的にテストメニューを消化しました。前日から相当量の降雨が予想されていた午後のセッションでは、開始時刻の 14 時になると冷たい風とともに霰まじりの激しい雷雨となり、午後予定されていたセッションは中止となりました。

快晴となった 3 日目のテストでは朝から散水車による散水が行われ、より排水性を高めることを目的とした表面パターンの異なるタイヤ 4 種類を装着して、走行テストを行いました。

2 日間のドライコンディションでのテストでは 1 周 4.801km のレーシングコースを「赤寅」の国本が 137 周回、「白寅」の山本が 147 周回を走行。最終日レインコンディションでの午前・午後 2 時間半ずつのテストでは、午後のセッションに「赤寅」にトラブルが出たため国本は 61 周回、山本は 93 周回 (午後のセッションは東コースのみを使用) を走行し、データの収集を行いました。



JRP では CN 開発テストを通して得られた知見を活かし、今後もカーボンニュートラルとエンターテインメント性の両立・向上に向けた活動を継続してまいります。

次回、今季第 2 回目のカーボンニュートラル開発テストは 9 月下旬に三重県鈴鹿サーキットで実施予定としています。また来週末の 5 月 22 日(金)から 24 日(日)にはシリーズ第 4 戦・第 5 戦となります「2026 年 NGK スパークプラグ 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 4 戦・第 5 戦」が鈴鹿サーキットにて開催されます。

2026 年 第 1 回カーボンニュートラル開発テストメディアフォト

<https://old.superformula.net/app/user/media.php>

パスワード：sf2026



<開発テストセッション後の報告会の様子>

開発ドライバー 国本雄資選手のコメント



「3日間通して様々なセットやマテリアルをテストした訳ですが、去年はもてぎでテストしていなかった  
ので違うサーキットでのデータが採れたことは良かったと思います。ブレーキなどの新たなマテリア  
ルについては来季に向けて良いところありますので、年内あと2回あるテストでよく見極めていき  
たいと思います。パワーステアリングのマッピングについては山本選手が選んだマップで試してみて問題  
があるかどうかテストしたのですが全く違和感を感じなかったですね。

レインタイヤについてはパターン違いと構造違いをテストしたのですが、排水性は上がっている  
のでグリップ感は向上しました。ただレギュラードライバーからは「構造が少し硬い」というコメントが  
上がっていますが、去年の良かったもの、今回持ち込んでいただいたもので良くなっているものが有  
りましたのでそこはポジティブに捉えています。」

開発ドライバー 山本尚貴選手のコメント



「来季以降を見据えたドライとウェットのタイヤテストがメインで、加えてシステムのアップデートや新しいマテリアルのテストを行いました。レギュラードライバーから上がっているパワーステアリングのマッピングの部分などにも注力しながらのテストでした。非常に密度の濃いテストになりましたね。マテリアルについてはすぐにでも反映できるもの、来季以降を見据えてテストするもの様々ですが、こちらも良いテストになりました。ウェットタイヤについては、ドライバーがより安心してドライブでき、安全なレースができるものが導入できるのではないかと考えています」

本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-5 axle 御茶ノ水 3F-304

(株)日本レースプロモーション 広報事務局：上坂・上田

Email: [media@superformula.net](mailto:media@superformula.net)